# ニッスイ　社会・環境報告書
Social and Environmental Report
2016

2016年11月発行

**日本水産株式会社**
経営企画IR室

電話　03-6206-7079
FAX　03-6206-7080
〒105-8676
東京都港区西新橋1-3-1 西新橋スクエア
ホームページ http://www.nissui.co.jp/

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022784
www.fsc.org

VEGETABLE OIL INK
本誌は環境へのやさしさに配慮して、FSC®認証紙と植物油インキを使用しています。

## Top Message

日本水産株式会社
代表取締役　社長執行役員
最高経営責任者（CEO）
**細見　典男**

私たちニッスイグループは、中期経営計画「MVIP2017」に掲げたCSRに根差した経営を推進するため、経営企画IR室にCSR推進課を新設いたしました。合わせてCSR行動宣言を策定し、広くステークホルダーの皆様からご意見をいただき、事業を通じ社会的課題の解決に取り組む活動を強化することとしました。これまでの環境報告書は「社会・環境報告書」に改定し、有識者との対談という形で当社の取り組みについてご意見を伺いました。

これまでに実施したダイアログでは、非常に貴重なご意見を多くいただきました。中には解決までには時間を要するものもありますが、独りよがりにならないよう対話を進めながら確実に実行して行きます。

従来から取り組んでいる環境意識向上活動については、参加人数を増やし更なる意識向上を図ると共に、環境負荷削減では、$CO_2$、廃棄物、水などについても改めて目標達成に向けて取り組んでまいります。

ステークホルダーの皆様と共に歩むこれからのニッスイグループに、ご期待ください。

## Contents


社長と有識者との対談で、ニッスイのCSRを考えます。
1 スペシャル対談「ニッスイグループのCSRとは?」

ニッスイグループのCSR活動の行動宣言と、活動の流れをご紹介します。
4 ニッスイグループのCSR活動への取り組み

ニッスイグループの、いま一番ホットなニュースです。
8 NISSUI Highlight 機能性表示食品を発売
鹿島医薬品工場の新設

食の安全・安心と地球環境に貢献する、
最先端の物流センターを誌上見学してください。
～社会とともに、地球環境とともに～
10 特集:日水物流株式会社
大阪舞洲物流センター

自然の恵みへの感謝の気持ちで、
地球環境の保全に取り組んでいます。
～地球環境とともに～
14 環境マネジメント
15 サプライチェーンを通じた
環境負荷の低減
16 生物多様性の保全
17 $CO_2$の削減
18 廃棄物の削減とリサイクル
19 水使用量の削減

地域社会の発展と、
次世代の育成に貢献する活動を続けます。
～社会とともに～
20 地域・社会への貢献

22 会社概要　編集方針
23 第三者意見
第三者意見を受けて

スペシャル対談

ニッスイグループの
CSRとは?

# ステークホルダーと一緒に課題解決に取り組む。それが私たちのCSR活動です。

日本水産株式会社
代表取締役　社長執行役員
最高経営責任者（CEO）
**細見 典男**

×

公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・
コンサルタント・相談員協会
**蒲生 恵美**

「私たちニッスイグループは、地球や海に感謝し、創業時より受け継ぐ5つの遺伝子（使命感、イノベーション、現場主義、グローバル、お客様を大切にする）から多様な価値を創造し、事業を通じて社会の課題解決に取り組みます」—新たにCSR行動宣言を定め、ニッスイグループは本格的なCSR活動を開始しました。ニッスイグループは今後どのような姿勢でCSR活動を推進していくのか?ニッスイグループならではのCSRについて、細見典男社長と、日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会の蒲生恵美様が語り合いました。

# ステークホルダーとの対話を重ねることから、CSRへの本格的な取り組みを始めています。（細見）

## ステークホルダーへのアンケートから、CSRの重要課題を抽出する。

**蒲生**　ニッスイグループは今年度から本格的なCSR活動を開始されました。ひと口にCSRといっても、企業によっていろいろなとらえ方や取り組み方があると思います。ニッスイグループは、どのようにCSR活動に取り組むのですか?

**細見**　我々にとっての6つのステークホルダー*に向けCSR行動宣言を作り、外部の声を聞くことからCSR活動を始めています。社外の有識者から意見をいただく一方、ステークホルダーへのアンケートから事業を通じて解決に取り組む重要課題（マテリアリティ）を抽出したところです。

**蒲生**　CSRについて改めて考えた時、マーケティングには3段階の進化のステップがあるということを思い出しました。1段階目は消費者のために良い製品をつくること、2段階目は多様な消費者ニーズに応えて製品の差別化を図ること。この段階まで消費者は受動的な存在ですが、3段階目は企業が消費者と一緒に価値を創造していく関係になります。消費者はCSR活動のパートナーであるという視点から、具体的な課題はどのように考えていますか。

*ステークホルダー :お客様、従業員、ビジネスパートナー、環境、株主、社会

## 消費者への情報提供やリサイクルループ、さまざまな側面からフードロスの削減に取り組みます。

**細見**　多方面のステークホルダーから挙げられている意見の一つである「フードロス」は、重要な課題としてとらえています。

**蒲生**　食品会社ならではの課題として、フードロスは悩ましい問題ですね。食品の場合、賞味期限を1日過ぎただけで捨てられてしまうことがあります。消費者も、賞味期限と消費期限の違いや、企業がどのように賞味期限を設定しているかなどを、正しく理解し判断することが必要だと感じます。

**細見**　企業は保存可能な期間に安全率を見込んで賞味期限を決めているので、賞味期限が切れたからといってすぐに食べられなくなるということではありません。蒲生さんは賞味期限を気にするタイプですか?

**蒲生**　食品を買う時、期限表示は必ず見ますし、やはり一日でも新しいものを選びますね。でも開封していない食品が賞味期限を一日でも過ぎると捨てられてしまうとしたらもったいない。まだ食べられるものを捨ててしまうのは資源確保の観点からも問題です。

**細見**　そうですね。消費者が鮮度の高い商品を求めるのは当然ですが、何でも新しいほうがいいという考え方はちょっと違います。例えば缶詰は作ったばかりの状態より、半年から1年経ったほうがむしろ味が馴染んでおいしくなります。消費者が自らの五感による判断を加えることで、行き過ぎた商品の廃棄は減少するのではないでしょうか。東日本大震災を機に大手量販店とも一緒に賞味期限の見直しを進めており、一部缶詰や魚肉ソーセージの賞味期限を見直しています。消費者の方にこうした情報を伝え、一緒になって食品廃棄物の削減を進めていきます。

**蒲生**　出荷した商品に問題が見つかった場合、企業が迅速・誠実に対応するのは当然ですが、その対応は回収・廃棄がすべてではないと思います。合理的な回収基準を持ち、再発防止策もきちんと示すことが企業に求められる姿勢だと思います。

**細見**　生産の現場でも多くの食品残渣が生まれます。生産工場での取り組みは、小集団活動といって現場の従業員でチームを作って工程ごとに廃棄物が出る原因を分析して改善を行い、削減の成果を競い合う活動も推進しています。また発生してしまった食品残渣を肥料にして農家に提供し、米を栽培しておにぎりや弁当などの原料にする、リサイクルループの取り組みを八王子総合工場冷凍食品工場とグループ会社の（株）チルディーで取り組んでいます。食品廃棄物から新しい商品が生まれる、まさにリサイクルの輪です。

**蒲生**　自分たちで課題を見つけて取り組む、すばらしい活動ですね。

## 魚を余すところなく活用する使命感から生まれたEPA。

**蒲生**　今回発売された機能性表示食品などに含まれるEPA*も、魚をムダなく活用する気持ちから生まれたそうですね。

**細見**　魚一匹は、魚肉を商品に利用した後、骨や頭など捨てるところが多いのです。それを捨てずに活用しようという考えで、捨てるところをすべて使って養殖魚のエサとなるフィッシュミールを作っていました。その工程から出る魚油に含まれる成分がEPAです。EPAは、血液や血管の健康維持に重要な成分であり、ニッスイグループは、1978年からEPAの健康効果の研究を始め、1980年に魚油から高純度のEPAを抽出する技術を確立しました。また、魚油には乳幼児の脳や神経の発達に必要なDHA*も豊富に含まれています。ニッスイでは医薬品向けだけでなく、高純度のEPA・DHAを原料とした、サプリメントや機能性表示食品、特定保健用食品などもお届けしています。

**蒲生**　EPAやDHAを含む健康食品を提供することで、健康なくらしへのモチベーションを高めることもできますね。

**細見**　ニッスイでは、血液中の酸素の運搬能力を高めるEPAの働きに着目し、「SPORTS EPA」を提案しています。EPAを活用した「食」と運動を組み合わせた生活を応援することで、日本人の健康寿命に貢献していきたいと考えています。

**蒲生**　さまざまな健康食品がありますが、1品で問題解決ができる商品はありません。健康食品をきっかけに、バランスのとれた食生活や日常的な運動など、食品メーカーならではのトータルな提案に期待します。

*EPA:エイコサペンタエン酸　*DHA:ドコサヘキサエン酸

SPORTS EPA シリーズ

## 実際に作っている現場を知ることから始める、魚食の普及活動。

**蒲生**　賞味期限の話も同様ですが、生産者と消費者との距離が広がってきているから消費者が数字だけで判断してしまうのではないでしょうか。五感を鍛えるという点では現場を見ることも非常に重要です。

**細見**　現場を見るという点ではニッスイグループの工場では小学生を対象にした工場見学を行っています。一例として姫路総合工場加工食品工場では、白衣を着てエアシャワーや手洗いなど衛生管理から始まり、工場内に入りラインの近くまで行き、できあがったばかりの竹輪を実際に食べてみる、という取り組みを行っています。また、グループ会社の山津水産株式会社では社内の「お魚マイスター」が小学校へ訪問し魚の種類やどこに骨があるかなどの授業を実際に魚を使って実施しています。朝日新聞社と提携した「『海とさかな』自由研究・作品コンクール」の開催は今年で35回目を数えます。これからも子供達にニッスイ商品や魚に親しんでもらう取り組みを進めていきます。

**蒲生**　とても素晴らしい取り組みだと思います。実際に食品製造の現場を間近に見ることで、いかに安全性に配慮して食品が作られているか、実体験から判断できるようになります。食品をムダにせず、おいしく食べる心も育まれます。フードロスの削減のためにも、現場での取り組みを続けてください。

**細見**　昔は家庭で魚をさばくことは当たり前で、実際に魚にふれることで理解を深めていきました。これからも子供たちに実際に現場を見てもらい、体験してもらうことで、魚食の普及に貢献していきたいと思っています。

## ステークホルダーをパートナーに、健康な食生活を提案します。

**細見**　私たちのCSR活動は、ようやく始まったところです。まだ手探り状態ですが、外部の意見に耳を傾け、独りよがりにならずに課題解決に取り組んでいきます。

**蒲生**　今日お話した課題、「フードロス」「食を通じた健康への貢献」「魚食の普及」のいずれも、正しい情報提供が消費者の問題意識を育て、共に課題解決を図ることにつながります。健康な食生活をトータルに提案する企業として、消費者に対し「一緒にやりましょう」というメッセージを発信してください。

**細見**　ステークホルダーとのコミュニケーションから、新しい気づきや活動のヒントを得ることも多いです。消費者をはじめとするステークホルダーをパートナーに、ニッスイグループならではのCSR活動を進めていきます。

# 消費者が一緒に課題解決に取り組むことができる、提案や情報提供をお願いします。（蒲生）

Profile

**蒲生（がもう） 恵美（えみ）**　公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会 食生活特別委員会副委員長

消費者委員会食品表示部会委員（2016－）（公財）日本健康・栄養食品協会評議員（2016－）
消費者庁機能性表示食品制度に対する消費者意向等に関する調査事業委員（2016）
消費者庁「栄養表示義務化及び食品の新たな機能性表示制度創設事業」WG委員（2014-2015）
消費者庁栄養成分表示に関する消費者読み取り等調査事業委員（2013-2014）
などを務める。現在、ニッスイ品質保証委員会の外部委員。

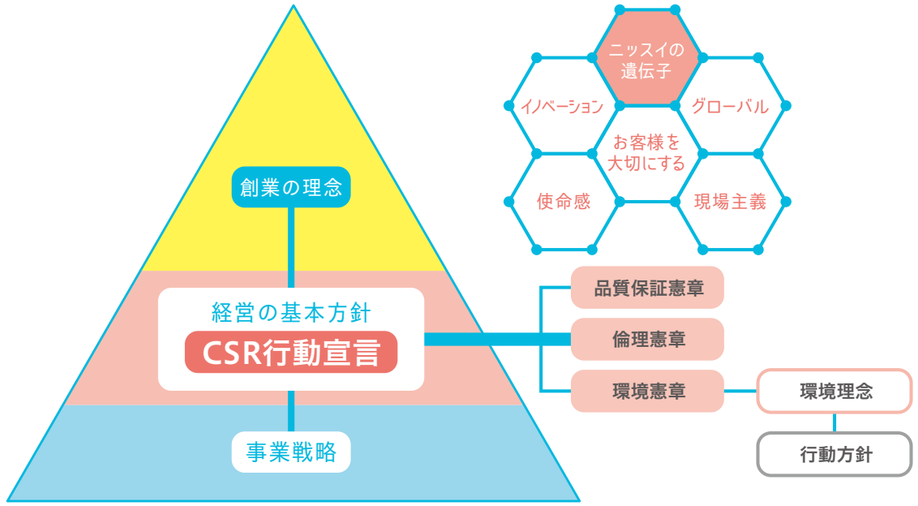
# 創業以来受け継がれた5つの遺伝子のもと、事業を通じて社会的課題の解決に取り組みます。

ニッスイグループはCSRに根差した経営を推進するため、2016年3月にCSR行動宣言を発表しました。地球や海の恵みを受けて事業を営むニッスイグループは、その自然の恵みに感謝の気持ちを持ち、創業時より受け継がれた５つの遺伝子から多様な価値を創造し続け、さらに社会から求められ続ける企業グループを目指します。

**創業の理念**

## 水の水道におけるは、水産物の生産配給における理想である。

ニッスイは水産会社として、海洋資源を可能な限り新鮮な状態で
世界の方々にお届けすることを創業の理念としています。
そして、創業以来受け継がれてきた5つの遺伝子のもと、広く社会に貢献していきます。




**経営の基本方針**

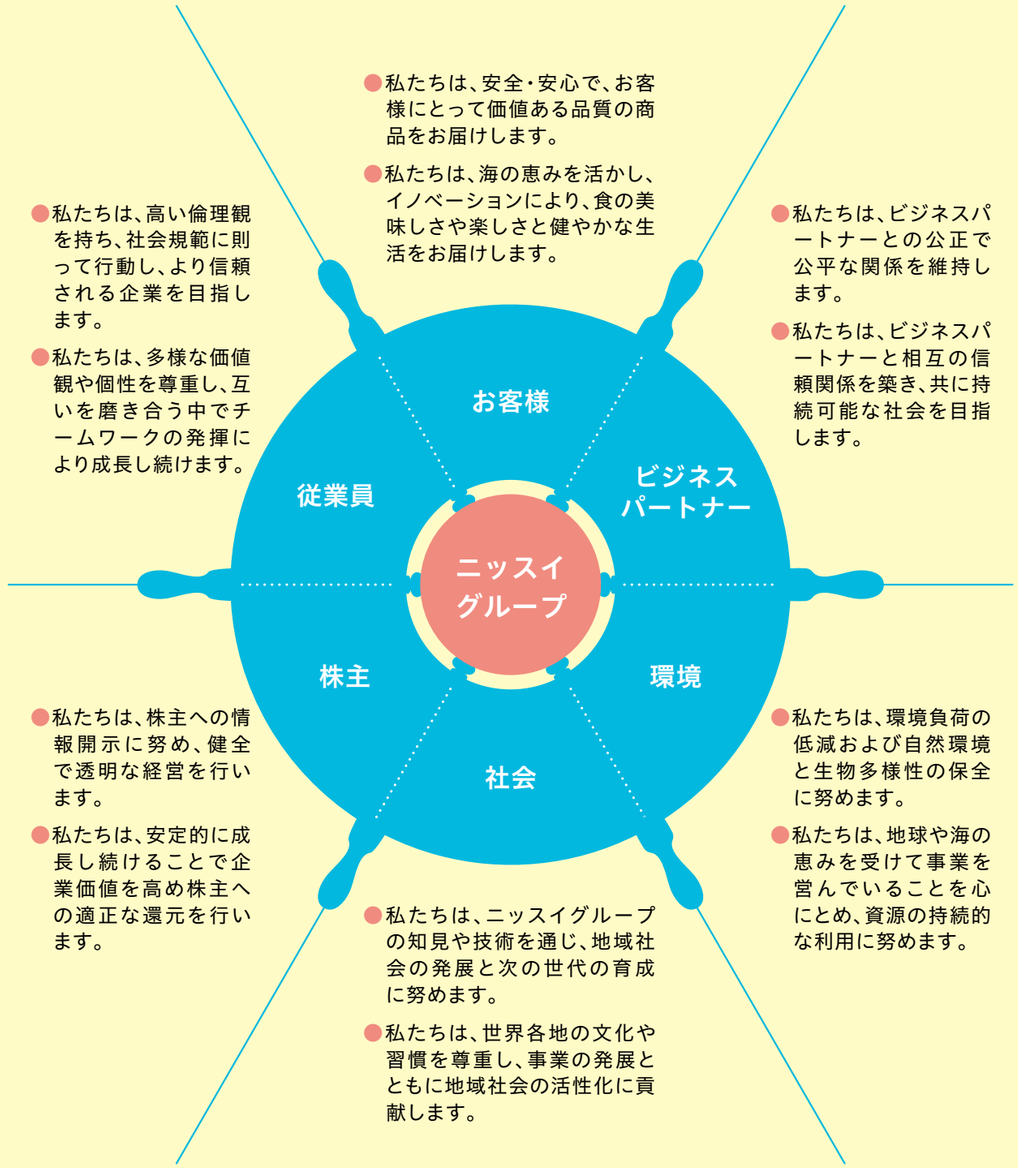
私たちは、水産資源の持続的利用と地球環境の保全に配慮し、
水産物をはじめとした資源から、多様な価値を創造し続け、
世界の人々のいきいきとした生活と希望ある未来に貢献します。

**環境理念**

自然の恵みを受けて仕事をする当社においては、資源を大切にし、
地球や海に感謝の心を持って接することを企業姿勢の基本としています。
私たちは、地球環境と調和・共生できるような、グローバルな事業活動を展開し、
持続可能な社会の構築に、継続的に取り組みます。

## CSR行動宣言

私たちニッスイグループは、地球や海に感謝し、創業時より受け継ぐ５つの遺伝子（使命感、イノベーション、現場主義、グローバル、お客様を大切にする）から多様な価値を創造し、事業を通じて社会の課題解決に取り組みます。



# ステークホルダーとの対話からグループの重要課題を特定し、社員一人ひとりが解決に取り組みます。

ニッスイグループは、グループ全体のCSR活動を推進するため、ステークホルダーの皆様との意見交換を経て、CSR行動宣言を策定しました。CSR委員会の体制も整え、ニッスイグループとしての重要課題（マテリアリティ）を特定し、今後さらに、ステークホルダーとの対話を重ね、グループ全体としてCSRの活動を推進していきます。

## ニッスイグループCSR活動取り組みの流れ

### 2015年12月　国内外グループ会社の実態調査

国内のグループ会社27社、海外のグループ会社11社の実態を把握しました。

### 2016年1月・2月　勉強会・社員（CSR行動宣言策定メンバー）によるワークショップ

階層別にCSRに関する勉強会を行うとともに、社員によるワークショップを開催し、幅広くディスカッションを重ねながら、我々にとってのステークホルダーを明確にし、CSR行動宣言を検討しました。

### 2016年2月　第１回ステークホルダーダイアログ

社会と共に発展し、より多くの皆様に貢献できるニッスイグループに近づくため有識者の方から貴重なご意見をいただきました。

- **商品開発は、マーケティングに留まらず社会課題解決視点が必要**
- **世界の水産加工業の共通課題は「労働」と「環境」**
- **資源への取り組みは、今のニーズを満たしつつ、将来のニーズに備えること**

ダイアログでは、ステークホルダーが求める企業姿勢・行動を、3つの視点で浮き彫りにします。

- **組織として進む方向の明示（取り組む姿勢が問われる）**
- **事業が与える負の影響を開示、解決策を検討**
- **進捗プロセスをステークホルダーと共に検証**

【ご意見をいただいた有識者】

**足達 英一郎 氏**
株式会社
日本総合研究所 理事

**山内 愛子 氏**
WWFジャパン
海洋水産グループ長

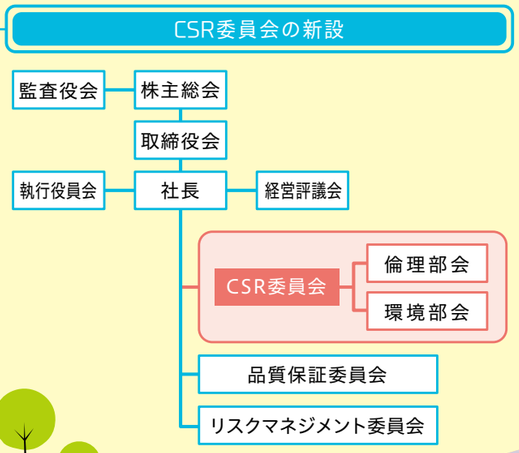
**古谷 由紀子 氏**
サステナビリティ
消費者会議 代表

### 2016年3月　CSRアンケート

取り組むべき課題を「緊急度」と「重要度」の観点からステークホルダーの方々にご意見を伺いました。

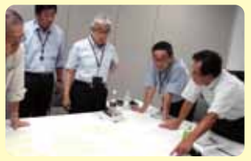
### CSR行動宣言の発表

### CSR委員会の新設




### 2016年6～7月　マテリアリティ検討役員ワークショップ

CSRアンケート結果をふまえ、社長をはじめ役員が集まり事業としての重要度を討議し、マテリアリティを検討しました。



### 2016年8月　社員とのコミュニケーション

社員への啓発活動として、2016年4月から定期的にCSR通信を発行しています。また、全社員を対象として経営と社員のCSRについての対談の場となる社員経営懇談会を進めています。

### 2016年9月　第2回ステークホルダーダイアログ

マテリアリティを特定するステップとして、有識者の方々と意見交換をしました。
今回は、第1回ステークホルダーダイアログにご参加いただいたWWFジャパン　山内様、サステナビリティ消費者会議　古谷様に加え、CSRアジア　赤羽様にご参加いただきました。

**赤羽 真紀子 氏**
CSRアジア
東京事務所 日本代表

### マテリアリティの特定

CSR行動宣言に掲げたステークホルダーの皆様のご意見からニッスイグループに寄せられている期待を把握し、マテリアリティの特定を進めてきました。
今後さらに、社員一人ひとりの意識を高め、グループ全体の活動としていきます。

機能性表示食品を発売

# ニッスイのEPA・DHA抽出精製技術を生かした、おいしい健康習慣をご提案します。

EPAやDHAは、魚の油に含まれる不飽和脂肪酸であり、中性脂肪値を下げる作用などさまざまな機能が知られています。ところが日本人は魚離れが進んでおり、一人あたりの年間消費量や、家庭の食卓で魚の登場する頻度も減少しています。それとともにEPA・DHAの摂取量が減ってきているのです。
ニッスイは、さまざまな場面でおいしく手軽にEPA・DHAを摂っていただきたいという思いから、特定保健用食品「イマーク」や「SPORTS EPA」サプリメント・ゼリー、「EPA+（エパプラス）」豆乳クッキーに引き続き、機能性表示食品7品を発売しました。朝食から夕食だけでなく、オヤツにもご利用いただける、さまざまな商品をこれからもお届けしていきます。

「機能性表示食品」とは、各企業の責任で科学的根拠に基づいた機能性を表示した食品です。販売前に安全性および機能性の根拠を示す情報などが消費者庁長官へ届け出されたものです。ただし、特定保健用食品とは異なり、消費者庁長官の個別の許可を受けたものではありません。

EPA+DHA 900mg 海から、健康 EPA life

※日本人を対象にした観察研究JPHC研究より。

**JPHC研究とは**：「多目的コホートに基づくがん予防など健康の維持・増進に役立つエビデンスの構築に関する研究」として、いろいろな生活習慣と、がん・脳卒中・心筋梗塞などの病気との関係を明らかにし、日本人の生活習慣病予防や健康寿命の延伸に役立てるため行われている研究です。平成21年度までは厚生労働省がん研究助成金による指定研究班として、平成22年度以降は独立行政法人国立がん研究センターによって実施されています。

ブランドマークでは、お客様が商品を選ぶ際の目安となるように、EPA・DHAの含有量を★の数で表記しました。

健康維持が期待できる1日あたりのEPA・DHAの摂取量は900mg以上※

★1つを150mgとし、★6つで1日に必要なEPA・DHA量の900mgを摂取することができます。

## ニッスイの機能性表示食品

届出表示 本品にはEPA・DHAが含まれます。EPA・DHAには中性脂肪値を下げる作用があることが報告されています。

**中性脂肪を下げる** EPA+DHA ★★★★★★ 1日に必要な量を摂取できます

毎日これ1本 EPA+DHA ソーセージ
毎日これ1本 EPA+DHA チーズ味
EPA+DHA配合 いわし梅煮しそ風味
EPA+DHA配合 いわし味噌煮
EPA+DHA配合 いわし生姜煮

ソーセージ類　缶詰

**中性脂肪を下げる** EPA+DHA ★★★ 1日に必要な量の1／2を摂取できます

7種の具材のミネストローネ
ユッケジャン

レトルトスープ

冷凍食品

◀ 切干大根
筑前煮
きんぴらごぼう
ひじきの煮つけ

鹿島医薬品工場の新設

# 世界一のEPAメーカーを目指して。

茨城県神栖市にあるニッスイ鹿島工場は、「魚油」から健康に役立つ成分を濃縮・精製するファインケミカル事業の拠点です。これまで鹿島工場では、EPA医薬原料、健康食品の素材となる機能性脂質（EPA・DHA）、化粧品素材となるオレンジラフィー油などを幅広く生産してきました。

### ニッスイは、EPAの研究・製造のパイオニアです。

ニッスイは1920年に民間で初めての水産研究施設「早鞆水産研究会」を設立し、漁場の調査、漁獲した魚類の研究、冷蔵法の研究などを行っていました。その後、獲った魚を加工し販売するようになると、それに使われない内臓や、そこから採れる魚油を余すことなくすべて活用することを目指し、1934年から魚油の利用のための研究を開始しました。
はじめは塗料として利用するための研究が行われていましたが、1978年に医薬としてEPAの研究が始まりました。1981年には医薬品化のため製薬会社と研究・事業化の契約を結び、EPA製剤の原料を供給するようになりました。1988年からは健康食品としてEPAやDHAを発売しています。
EPAをはじめとしたさまざまな成分の抽出精製技術は現在、医薬品、健康食品、幼児用ミルク原料だけでなく、化粧品原料に至るまで活用されています。

### 医薬原料としてのEPA生産に特化した新工場の建設。

2016年1月、ニッスイは、医薬原料としてのEPA生産を増強するため、既存の鹿島工場に隣接した土地に鹿島医薬品工場を着工しました。2018年稼働を予定、年間420トンの生産を目指します。新工場は「魚油」からの高いEPA回収率を実現し、EPA含有濃度の低い原料からも高い純度のEPA製造が可能なラインとなります。製造設備は排出される水や熱エネルギーを回収・再利用できるよう対応し、施設内はLED照明を取り付け環境負荷の低減にも貢献します。また、米国の製造・品質管理基準である「cGMP（現行医薬品適正製造基準）*」を取り入れ、グローバルに拡大する市場に対応します。
世界一のEPAメーカーを目指す、これからのニッスイにご期待ください。

*cGMP基準:
current Good Manufacturing Practice アメリカFDAが定めた、医薬品などの品質基準。

隣地に建設中の鹿島医薬品工場

鹿島工場全景

特集 日水物流株式会社

# 大阪舞洲物流センター

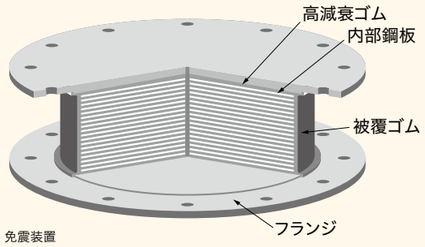
## 先進の地震・津波対策と、高い省エネ性、物流の効率化を実現した、最先端の物流拠点です。

2016年4月、ユニバーサル・スタジオ・ジャパンからほど近く、阪神高速湾岸舞洲ICから約1.6㎞の大阪・舞洲に、ニッスイグループの新しい物流拠点を開設しました。地震や津波に強く、自然冷媒の使用による高い省エネ性、独自の建物構造による物流の効率化を実現した、新しい物流拠点をご覧ください。

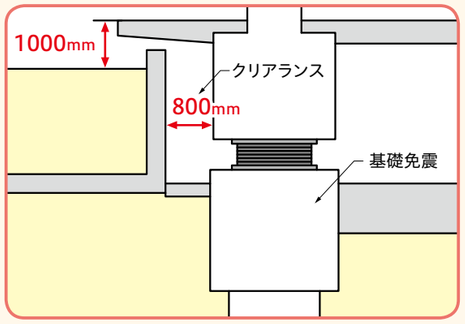
## 非常時も荷物を守る、万全の地震・津波対策。

日水物流株式会社大阪舞洲物流センターの第一の特長は、万全の地震・津波対策です。南海トラフで想定される海溝型の巨大地震が発生した場合、大阪湾の津波の高さは3.7m~4.5mが想定されています。大阪臨海部の防災対策により舞洲地区は大阪湾最低潮位+7.0m以上確保されていますが、大阪舞洲物流センターはさらに1m地盤を高く作り上げています。建物の設計にも過去の震災の教訓を生かし、海側に開口部を設けないことで津波の侵入を許さない強固な作りを実現しました。

建物は高い減衰性能を有した免震構造を採用しています。免震装置は高減衰ゴムを使用、広いクリアランスを確保し従来よりも揺れに強い構造になっています。非常用電源は屋上に確保し、災害により停電が発生しても機能は停止しません。揺れによる荷物の転倒・落下を防ぎ、温度を確保することで品質を維持します。



免震装置



免震構造

## 自然冷媒アンモニア／$CO_2$冷凍機の導入と独自の制御で最高レベルの省エネを実現。

日水物流株式会社では省エネ性、安全性に優れた最先端の技術であるという観点から、2008年に自然冷媒アンモニア/$CO_2$システム「NewTon」を業界で初めて川崎物流センターに導入しました。今回の大阪舞洲物流センターは、その3拠点目となります。

自然冷媒の導入は今後の地球温暖化対策として切り札となるものであり、今では多くの企業に採用されています。これにより日水物流株式会社は大幅な省エネを実現できましたが、この結果に満足することなく、さらなる取り組みを行っています。1例目の川崎では導入されていませんでしたが、メーカーとの協働によりインバータを設置し、クーラーファンの回転数制御を行う工夫をすることで、さらなる省エネを実現したのです。その結果、経済産業省の事業者クラス分け評価制度では、優良事業者としてSクラスに認定されています。そして今年稼働した大阪舞洲物流センターでは、冷凍機の工夫に加え建物内の構造にも配慮することで最高レベルの省エネを実現できる設備となりました。

今後同社では、すべての冷凍機器を自然冷媒に切り替えていく計画を中長期で進めていきます。

屋上に設置された自然冷媒アンモニア／$CO_2$冷凍機

## 「ワンウェイキャピタル構造」で、省エネプラス物流の効率化を両立。

大阪舞洲物流センターは、物流の効率化に貢献する、独自の建物構造を採用しています。冷蔵庫内は、梁のないフラットスラブ方式により冷気の流れを妨げることがないため、冷気が均一に回ります。さらに独自の「ワンウェイキャピタル*構造」（（株）竹中工務店・ニッスイエンジニアリング（株）により特許出願済）を採用。冷気がスムースに流れるようにワンウェイ（一方向）にキャピタルを設置し、さらにキャピタルを扁平にすることで空間を広くし、積荷スペースを有効に確保しています。

広い作業スペースを持つ1Fプラットフォーム

積荷スペースが有効に確保された庫内

外周部の柱には高強度コンクリートを使用することで、サイズを小さくし、本数も減らすことができたため、作業スペースが大幅に広がり、通常よりも3割ほど多い29ものトラックバースを設置することができました。待機車両の数を軽減し物流の効率化につながっています。バースの数が多くても、もちろん密封性は高く外気の侵入はほとんどありません。

その他、照明はすべてLEDを使用し、垂直搬送機は下りの際のモータの回転を利用して発電するなど、省エネへの配慮も行き届いています。

*キャピタル:床を補強する目的で天井と柱の間に設ける支板のこと。

トラックバース

## 36台のカメラと顔認証システムが、24時間倉庫を守ります。

施設内のいたるところにカメラが設置されているのも、大阪舞洲物流センターの特長の一つ。その数は、全方位を撮影する魚眼カメラ13台を含む36台。死角なく撮影することで、貨物の盗難や食品テロなどを防ぐフードディフェンス対策を徹底しています。

さらに、NIST*評価で世界NO.1の顔認証システムを採用し、倉庫への出入りを24時間監視します。登録した人に対してしか倉庫の扉が開かないシステムで、登録された顔認証はすべて記録に残されます。荷物を搬入するトラックのドライバーなどが自ら受付で簡単に登録することができ、登録しない者が倉庫内に入ることはありません。

事務所で顔を登録

倉庫入口

倉庫内天井に設置されたカメラ

*NIST:National Institute of Standards and Technology アメリカ国立標準技術研究所。アメリカの技術や産業に関する標準化を行う政府機関。

## 地域社会に貢献する、これからの物流センターへ。

周囲に民家がなく、物流倉庫が広がる大阪・舞洲地区。大阪舞洲物流センターは、敷地と道路の境界のフェンスを減らすことで、周囲との垣根をなくし、公園のような緑地帯を広げる活動を推進しています。また、ニッスイグループのクリーンアップ作戦の一環として地域の清掃活動を行ったり、周辺地域の冷蔵倉庫協会と連携した環境保全や防犯活動も実施するなど、このエリアの一員として地域社会に貢献しています。

地域社会と共存し、貢献する物流センターとしても、大阪舞洲物流センターは先行モデルを目指します。

会社周辺のクリーンアップ活動

### DBJ Green Building　認証を取得

日水物流株式会社大阪舞洲物流センターは、株式会社日本政策投資銀行（DBJ）により、利便性の確保・環境への配慮・非常時の対策がなされた物流施設として、2016年7月DBJ Green Building 認証※を取得しました。

今回の認証取得は、以下の点が評価されたものです。

（1）冷蔵倉庫業界初の「ワンウェイキャピタル工法」の導入により、柱サイズの縮小および柱本数の削減を実現することで、パレット収容率を向上するなど空間を有効活用するとともに、広い荷捌きスペースと設備規模対比最多レベルの29バースを確保し、利便性を高めている点。

（2）全館LED照明の設置、地球温暖化対策として開発された自然冷媒を使った冷凍機の採用など、環境に配慮した施設運営を行っている点。

（3）免震構造の採用や非常用発電機の設置などの防災対策、ドライバー顔認証セキュリティシステムの導入による防犯対策など、非常時を想定した対策を実施している点。

その結果、国内トップクラスの卓越した「環境・社会への配慮」がなされたビルとして、最高評価（5 Stars）を受けました。

※DBJ Green Building認証：環境・社会的側面について不動産価値への反映を目指し、中長期的には不動産としてのGreen Buildingが評価される不動産金融市場の整備・育成に貢献していくことを目的とした金融機関としては日本初の取り組み。環境性能、テナント利用者の快適性、リスクマネジメント、周辺環境・コミュニティへの配慮、ステークホルダーとの協働の5つの視点から評価し、スコアリング結果に基づき5段階の認証を付与される。

DBJ Green Building
2016

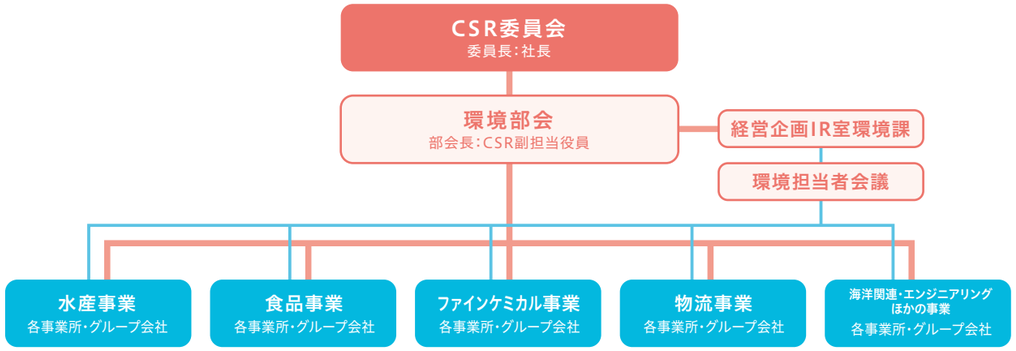
## 環境マネジメント

# CSR行動宣言の下に環境マネジメントシステムを構築し、持続可能な社会の実現に取り組みます。

ニッスイは、2016年よりCSR委員会の下にこれまでの環境委員会を環境部会と名称を変え、より活動を活発化させるため体制を見直しました。$CO_2$排出量削減、廃棄物削減、水使用量削減の3つの項目で数値目標を定め、環境負荷低減を図るとともに、環境意識向上活動も拡大させます。

## 環境マネジメント体制

環境部会は4回/年開催し、そこでの討議内容はCSR委員会に報告されます。また、各事業分野の事業所およびグループ会社ごとに環境マネジメントシステムを構築し取り組んでいます。




**環境部会**
- グループ全体の環境への取り組みに関する基本的事項の協議・決定
- 環境保全活動の推進、進捗管理
  ＊2015年度は環境委員会（委員長：社長）として2回開催

**経営企画IR室環境課**
- グループ全体の環境への取り組みに関する施策の企画・提案
- 各事業分野の環境負荷削減状況の進捗確認、情報発信
- 好事例の横展開

**環境担当者会議**
- 各事業分野の活動状況の進捗確認、情報交換
- 好事例の横展開
  ＊2015年度は2回開催
- 法律順守状況の確認

### ISO14001の認証取得

ニッスイでは、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証取得を推進しています。2016年6月末現在、ISO14001の認証を取得している事業所は、直営事業所および国内連結子会社・グループ会社を合わせて62事業所です。

### 環境リスク管理

2015年度は、ニッスイの事業所において、環境に重大な影響を与える事故・トラブルの発生はありませんでした。また、前年度に引き続いて、大気、水質、臭気、騒音、振動に関わる法令等の基準をクリアしています。食品リサイクル法、省エネ法、地球温暖化対策推進法についても順守しています。

### 環境教育・啓発

環境教育では、従来からの新入社員教育や環境担当者会議での教育に加え、地球環境の現状と持続可能な社会の構築へのニッスイのステップを知る生物多様性に関する環境教育を実施しています。

### ecoレターで従業員の環境意識を向上

ニッスイでは、身近なテーマを題材に、ecoレターを定期的に配信しています。2015年5月配信のVol.20「森・川・海のきずな」では、森・川・海を一体とした保全の重要性を提起しました。Vol.21「2020年東京オリンピック、ごみゼロできるかな?」では、オリンピックにおける持続可能性の取り組みについて考察。Vol. 22「2020年東京五輪でどんな魚が提供されるの」では、オリンピックでの水産物の調達基準について発信しました。Vol.23「エコタウンという町」では、産業廃棄物をリサイクルする国のエコタウン事業を紹介しています。

## サプライチェーンを通じた環境負荷の低減

# 世界の海から食卓まで、事業活動のあらゆる局面で環境負荷の低減に努めています。

世界の海での原料の調達から、製造・加工、物流、そしてお客様の食卓まで。ニッスイは、事業のあらゆる局面で発生する資源やエネルギーの使用状況、廃棄物などの排出状況を数値で把握し、サプライチェーンを通じた環境負荷の低減に努めています。

## 2015年度の資源やエネルギーの流れ

**原料素材**

世界中で原材料を調達するとともに、資源と地球環境を大切にしています。また、資材・包装材・梱包材の使用削減、グリーン調達にも努めています。

**調達加工**

水産資源の持続的利用に配慮しながら、おいしさと品質にこだわった水産食材や食品、健康に貢献する機能性素材など、多様な価値を創造しています。

**水産事業**
水産資源へのアクセスを強め、安全・安心でおいしい水産食材（鮮魚・冷凍魚）を安定して提供します。

**食品事業**
食生活の変化への対応や減塩食品の提案など、「食」を通して社会に貢献する新たな価値を創造します。

**ファインケミカル事業**
水産資源を活かしたR&D技術により、「EPA」や「DHA」などの機能性素材を創出。健康分野でのより大きな貢献を目指します。

**物流その他**

物流の効率化と環境配慮を両立させたバリューネットワークを構築。さらに、これまで培った技術と人材をベースに海や食に関わる幅広い事業を展開します。

**物流事業**
冷蔵倉庫事業、総合的な物流事業を受託する3PL事業、海上国際物流を展開。保管容量の拡大により、物流効率の改善と進化を図ります。

**その他**
船舶の建造や運航、食品加工分野の設備・機材の販売、海洋研究支援業務など。

**2015年度**

**INPUT**

水資源
市水・井戸水・工業用水：3,653千$m^3$

エネルギー
購入電力：203,103千kWh
A重油：4,542kL
灯油：810kL
軽油：2,662kL
都市ガス：15,685千$m^3$
LPG：2,471t

**OUTPUT**

廃棄物
動植物性残渣、廃油、汚泥など
発生量：33,907t
リサイクル量：32,453t
（リサイクル率約95.7%）
処理・処分量：1,454t

水系・下水への排出
排水・BODなど

大気への排出
$CO_2$など　$CO_2$：175,368t-$CO_2$

**商品サービス**

おいしさとともに、食べやすさや、安全・安心に徹底的にこだわった商品をお届けします。

〈水産加工品〉〈練り製品〉〈フィッシュソーセージ・ハム〉〈冷凍食品〉〈缶詰・びん詰〉〈健康食品〉

**お客様**

お客様のもとで消費され、廃棄物となる商品の容器包装の削減にも取り組んでいます。

## 生物多様性の保全

### 多様な生物が生息する地球を守る、従業員が主役の活動を推進しています。

自然の恵みを受けて事業を営むニッスイグループにとって、多様な生物が生息できる環境の保全は重要な使命の一つです。ニッスイグループは、「環境憲章・行動方針」に生物多様性の保全を明記し、生態系と調和する水産資源の持続可能な活用を目指します。

## ～森の養分が川を通じて海に流れ、魚を育てる～ 森・川・海一体の保全活動

ニッスイグループでは、森を保全することが貴重な源流を守ることや、森で生まれた養分が川を伝い海に流れ、魚や貝を育てることを学び実践しようという活動を実施しています。毎年6月には八王子宇津貫緑地で里山保全体験講座、秋には東京近郊で生物多様性学習講座を実施しています。また2015年度は「ecoレター vol.20 森・川・海のきずな」で森・川・海保全の重要性を発信しました。

### 八王子宇津貫緑地保全体験講座

2015年6月13日、ニッスイ東京イノベーションセンター隣地にある八王子宇津貫緑地で、第3回目となる里山保全体験講座を実施しました。ニッスイ従業員とその家族25名が「宇津貫みどりの会」の指導のもと、里山の多様な生物について学び、その保全を体験しました。
なお、ニッスイは、2015年度より「宇津貫みどりの会」の賛助会員になっています。

### 葛西臨海公園　生物多様性学習講座

2015年9月26日、東京都葛西臨海公園で、生物多様性学習講座を実施しました。「NPO法人オーシャンファミリー海洋自然体験センター」の指導により干潟でさまざまな生物を捕まえて観察したり、牡蠣の海水浄化実験を行い、東京湾の水質改善状況を実感しました。（企画「公益社団法人　日本環境教育フォーラム」）

ニッスイグループ内に配信している「ecoレター vol.20 森・川・海のきずな」

## 日本初のASC認証取得へパイロット監査を実施

ニッスイグループの黒瀬水産（株）では、2016年2月末に認証機関とブリ類ASC認証*のパイロット監査を実施しました。パイロット監査とは、ASC基準に基づいた監査マニュアル作成のための実地検証であり、将来の本審査の準備を整えるための取り組みです。日本初の認証取得に向けまた一歩前進しました。

*ASC認証:WWF（世界自然保護基金）などが2010年に立ち上げた、持続可能な養殖業であることを証明する第三者認証。

## サステナブル・シーフード・ウィークへの賛同

持続可能な水産物を供給・消費することの重要性を呼びかけるサステナブル・シーフード・ウィークが、WWFジャパン・MSC日本事務所の主催で2015年6月5日～15日に開催されました。ニッスイはこのキャンペーンに賛同企業として参加しました。

## WWFジャパンの法人会員に入会

ニッスイは、2016年2月、公益財団法人 世界自然保護基金（WWF：World Wide Fund for Nature）ジャパンの法人会員に入会しました。WWFは、100カ国以上で活動している地球環境保全団体であり、地球上の生物多様性の保全と、人の暮らしが自然環境や野生生物に与えている負荷の軽減を柱として活動しています。ニッスイは、資源の持続的利用と地球環境の保全を重要な課題の一つと考え、WWFの活動に協力していきます。





## $CO_2$の削減

### グループを挙げた取り組みで、$CO_2$排出量を計画的に削減しています。

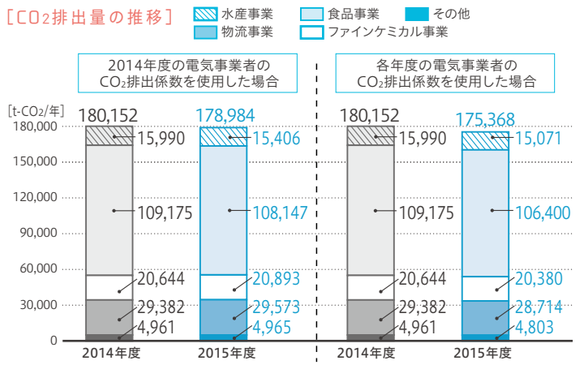
地球温暖化の原因の一つとされる$CO_2$排出量の削減に向けて、数値目標を定め、グループが一体となった計画的な取り組みを進めています。事業のさまざまなシーンでの省エネルギーや節電、最新設備への入れ替え、再生可能エネルギーの利用などを通じて、$CO_2$排出量の削減を着実に推進しています。

## $CO_2$排出量

| | 目標 | 2014年度比1.0%削減 | 実績 | 2014年度比2.7%削減 |
|---|---|---|---|---|

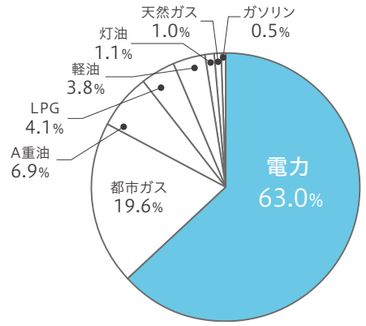
2015年度、ニッスイグループの$CO_2$排出総量は175,368tで、前年度比2.7%の削減となりました。使用しているエネルギー別の$CO_2$排出内訳は、電力が63.0%（前年度55.1%）と前年度よりも割合が増え、続いて都市ガスが19.6%（前年度22.7%）、A重油が6.9%（前年度10.5%）などでした。

［$CO_2$排出量の推移］




※購入電力量の$CO_2$排出量は、電気事業者の$CO_2$排出係数を使用して算出しています。

［2015年度 $CO_2$排出量品目別発生割合］




## $CO_2$排出量削減の取り組み

### ボイラー入れ替えで$CO_2$排出量を削減（（株）ハチカン）

グループ会社の（株）ハチカンでは、ボイラーを重油から天然ガス（LNG）に入れ替えることで$CO_2$排出量を大幅に削減しています。冷食工場と常温工場をあわせて、2016年1～3月で730t-$CO_2$の削減効果が確認できました。

天然ガスボイラー

### エコキュート導入による環境負荷低減（モガミフーズ（株））

グループ会社のモガミフーズ（株）は、冬期の蒸気不足解消と環境負荷低減を目的に、大気の熱を利用してお湯を沸かす給湯器エコキュートを導入。重油の削減につながり、2014年度総量の1.4%にあたる70t-$CO_2$を削減しました。今後は冬期の運転を調整し、さらなる省エネ化を図ります。

エコキュート

### 太陽光発電で省エネと$CO_2$削減を推進（弓ケ浜水産（株））

鳥取県境港市で銀ざけの養殖に取り組む弓ケ浜水産（株）は、2015年より太陽光発電システムを導入し、2015年7月～2016年3月で25万kWhを発電。海とともに生きる企業として、今後も環境保全に貢献します。

太陽光発電システム

## 廃棄物の削減とリサイクル

### 3Rの取り組みにより、廃棄物の削減と再資源化を促進します。

限りある資源を最大限有効に活用するため、グループを挙げた3R*(スリーアール)により事業活動を通じて発生する廃棄物の削減と再資源化を推進。国内の直営工場はすべてゼロエミッション*を目指しています。また、容器包装廃棄物の削減とリサイクルに継続的に取り組んでいます。

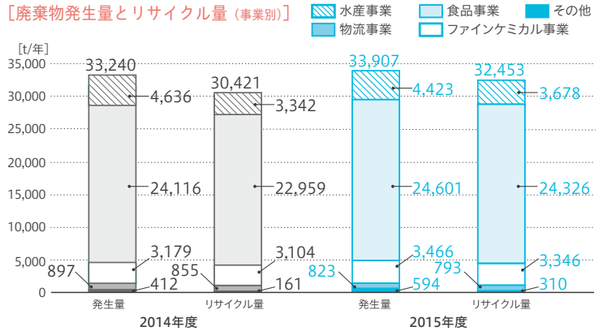
*3R：2000年に循環型社会形成基本法において導入された、廃棄物やゴミを減らすためのキーワード。Reduce(リデュース):減らす、Reuse(リユース):繰り返し使う、Recycle(リサイクル)：再資源化する、の頭文字をとったものです。
*ゼロエミッション：廃棄物の99%再資源化を目指すニッスイの取り組み

### 廃棄物発生量とリサイクル量

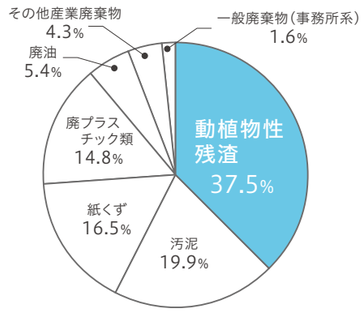
| 目標 | 2014年度比5.8%削減 | 実績 | 2014年度比2.0%増加 |
|---|---|---|---|

2015年度の廃棄物発生量は33,907tで前年度に比べ2.0%増加しました。生産工程内で発生する品質基準に適合せず発生した廃棄品が多かったためです。一方2015年度のリサイクル率は95.7%で、昨年度比4.2%改善することができました。廃棄物の品目別では、動植物性残渣が37.5%と最も多く、汚泥19.9%、紙くず16.5%、廃プラスチック類14.8%、廃油5.4%、その他産業廃棄物4.3%、一般廃棄物(事務所系)1.6%の順でした。ゼロエミッションについては9工場中6工場が達成しました。

[廃棄物発生量とリサイクル量(事業別)]




[2015年度 廃棄物品目別割合]




### 廃棄物削減の取り組み

#### 東京・港区「みんなと3R」展でニッスイの活動を紹介(2015年10月、2016年2月)

ニッスイは、みなと区役所が主催し、2015年10月にみなと区役所、2016年2月に港区エコプラザで開催された「みんなと3R」展に参加しました。ソーセージのエコクリップへの変更や、キャラクターソーセージの小箱のラップフィルムをはずしたこと、生産工場での小集団活動による廃棄ロス削減の取り組みについてパネルで紹介し、廃棄物削減の取り組みに理解を深めていただくことができました。

みなと区役所での展示

#### 小集団活動でほうれん草廃棄物を削減(モガミフーズ(株))

グループ会社のモガミフーズ(株)では、小集団活動により自然解凍冷凍食品「ほうれん草3種のおかず」の廃棄物を削減しています。設備に治具を取り付け、盛付カップが動かないよう工夫したり、ほうれん草がコンベアに付着しないようにするなどの工夫で、廃棄率を0.11 ～ 0.62%削減することができました。

治具検討の様子

#### 生ゴミ処理機の導入で廃棄物を削減((株)チルディー)

グループ会社の(株)チルディーでは、生ゴミ処理機を活用し食品廃棄物を大幅に削減しています。生ゴミ処理機は菌床が入った撹拌器により植物性残渣を分解するもので、2014年11月より導入し、菌床の工夫により現在では1日に100kgの処理が可能となり、年間32.9tの廃棄物削減につながりました。

生ゴミ処理機





## 水使用量の削減

### 限りある水資源を守ることは、ニッスイグループの使命です。

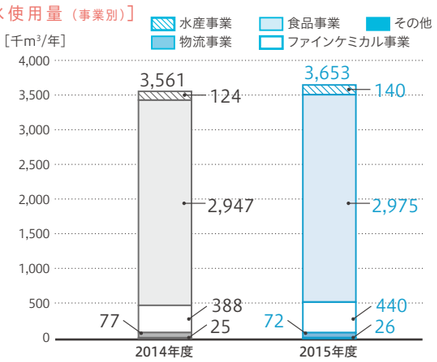
水は、くらしや社会に欠かせない資源であり、私たちが事業とする水産物の源でもあります。限りある水資源を守るため、ニッスイグループでは工場での節水や水の再利用などによる水使用量の削減を計画的に推進しています。

### 水使用量

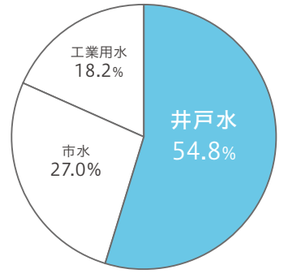
| 目標 | 2014年度比2.7%削減 | 実績 | 2014年度比2.6%増加 |
|---|---|---|---|

2015年度の水使用量は3,653tで前年度比2.6%増加しました。
事業別では全使用量のうち81.4%が食品事業でした。生産量減少にも関わらず水の使用量は増加しておりますので、今後も清掃方法の工夫とともに流量計の設置による見える化を進め、節水に向けて継続して取り組みます。
なお、水の供給源の内訳は、井戸水が54.8%、市水が27.0%、工業用水が18.2%でした。

[水使用量(事業別)]




[2015年度 水使用量品目別割合]




### 水使用量削減の取り組み

#### 小集団活動により製造工程での水使用方法を見直し、原単位3%の削減(姫路総合工場加工食品工場)

ニッスイ姫路加工食品工場では、小集団活動による水使用量削減に取り組んでいます。工程内に毎分何ℓの水を使用しているかを示す瞬時流量計、日々の水使用量全体を確認する積算流量計を取り付け、緻密に計測することで、工程ごとの水の使用量を見える化し、削減を図っています。
竹輪の成形工程では、これまで練肉を串に巻きつけた後きれいなねじり模様をつけるため、水を常時串に滴下していました。それを、水を含ませたシートを取り付け練肉自身の水分だけで形良く巻きつくよう改善し、水は常時滴下不要になりました。これにより、原単位で3%の節水を実現しています。

毎分何ℓの水を使用しているかを示す瞬時流量計

竹輪の成形工程

日々の水使用量全体を確認する積算流量計

## 地域・社会への貢献

# 地域社会の発展と次世代の育成に貢献する、ニッスイグループならではの活動を推進します。

ニッスイグループは、CSR行動宣言に基づき、水産資源から多様な価値を創造する企業として、子供たちを対象とした魚食普及の取り組み、地域社会と共生する活動などを通じて、地域社会の活性化と次世代の育成に努めていきます。

## 魚食普及の取り組み

### 魚食への理解を深める工場見学を実施

子供のころから食の生産現場にふれ、魚食に親しんでほしい。そんな思いから、ニッスイグループでは、地域の小学校による工場見学などを行っています。姫路総合工場では、小学生が実際に竹輪を作っている様子を間近に見学し、体験を通して安全・安心の商品づくりを学びました。

串に巻き付けた練肉（魚のすり身を練ったもの）を触ってみる

### おさかなマイスターが小学校や保育園を訪問

ニッスイグループの山津水産（株）では、2013年9月より魚食普及活動「イートフィッシュプロジェクト」を開催しています。その一環として、山津水産の「おさかなマイスター」が、地元新潟県の小学校や保育園を訪問しています。対話形式で、子供たちからたくさんの質問が出され、生きた魚に触れる場面では大いに盛り上がりました。

焼き魚を使って、どこに骨があるのか?学びながら食べます

## 「海とさかな」自由研究・作品コンクール（ニッスイ協賛　主催：朝日新聞社、朝日学生新聞社）

### 約3万名が参加した、第34回「海とさかな」自由研究・作品コンクール

2015年で第34回を迎えた「海とさかな」自由研究・作品コンクール。今回の応募作品は29,736作品（前回実績:31,741作品）で、全国の小学校・団体・海外の日本人学校などから29,776名が参加しました。今回の応募作品は、子供たちが自らの体験を通じて学んだことを表現している作品が多く、すべての部門でレベルの高いコンクールとなりました。右の2作品は日本水産株式会社賞に選ばれました。

創作部門
「九十九里浜のいわし漁」

研究部門
「ホゴ（カサゴ）をかんさつしたよ」

### 「海とさかな」の不思議を学ぶ、出張授業・体験学習

「海とさかな」自由研究・作品コンクールの作品募集活動の一環として、出張授業や「夏の体験学習」を開催しています。2015年度は、全国10の小学校で「魚の体の仕組みについて」などをテーマに出張授業を実施。うち4ヵ所ではニッスイ社員が講師となり授業を実施しました。また、夏の体験学習ツアーには、合計35名の小学生が参加しました。グループの弓ケ浜水産（株）ではサーモンの加工工程の見学、JAMSTEC*横須賀本部では有人潜水調査船「しんかい6500」の模型に体験乗船するなど、子供たちは目を輝かせていました。

*JAMSTEC: 国立研究開発法人海洋研究開発機構。ニッスイグループの日本海洋事業（株）がJAMSTECの所有する海洋・深海調査船の運航・管理業務を受託している。

生活機能科学研究所・大橋所長による授業「さあ、お魚のはなしをしよう」





## 地域とのコミュニケーション

### ニッスイグループ「クリーンアップ作戦」を実施（地域清掃活動）

2015年6月に行われた第10回「クリーンアップ作戦」には、グループの83事業所から1,176名の従業員が参加、2015年10月の第11回には93事業所から1,128名の従業員が参加し、地域とのコミュニケーションや、環境や社会への貢献を意識した清掃活動を行いました。

ニッスイマリン工業（株）清掃活動の様子

### 地域社会に貢献するニッスイパイオニア館の活動

創業100周年を記念し、北九州市戸畑区に開設されたニッスイパイオニア館は、教育機関や地域社会への貢献などを目的とした活動を続けています。毎年秋には戸畑区８つの小学校から依頼され、社員が講師となって漁業や水産加工業の授業を行っています。また年間を通じて多くの市民の皆様に来訪いただいています。

戸畑区小学生への授業

### 家族見学会で鮎のつかみ取りなどを実施（ニッスイ安城工場）

ニッスイ安城工場では、従業員の家族見学会を実施しています。2015年度は、鮎のつかみどりやシューマイ・コロッケなど工場製品の試食会を行うなど、楽しい催しの中でコミュニケーションを深めました。

工場製品の試食会

鮎のつかみ取り

### 「花とふれあいのまちづくり」に参加（ニッスイ鹿島工場）

ニッスイ鹿島工場は、2013年度より、花植えを通して人と人のふれあいの輪を広げようという神栖市の植栽活動に参加しています。2015年度は5月30日、10月31日に、従業員と家族が参加。鹿島セントラルホテル前のフラワーロードに、鮮やかな花々を植え、美しいまちづくりに協力することができました。

ポットを植える作業も手馴れてきました

### PETボトルキャップの回収活動

2009年度よりニッスイ本社で始めたこの活動は他の事業所にもひろがり、姫路総合工場ではキャップを使ったニッスイロゴの作成など、従業員が気軽に参加できる活動となっています。回収されたキャップはNPO法人を通じて売却され、ワクチンなどの購入にあてられます。ニッスイ本社では2015年度に51,859個、モガミフーズ（株）では26,553個のキャップを回収し、ポリオワクチン購入費用などにあてられました。

姫路総合工場では細見社長がキャップアートを完成

### セカンドハーベストジャパンの活動に参画

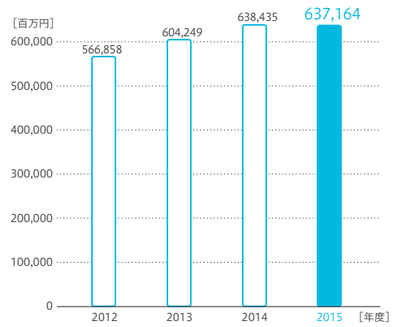
2008年度より、支援の必要な人々に食料を提供するNPO法人セカンドハーベストジャパンの活動に参加しています。セカンドハーベストジャパンは、外箱の破損などで販売できなくなった食品と、食べ物を十分に手に入れることのできない人々を結ぶフードバンクの役割を担っています。2015年度は日水物流（株）、キャリーネット（株）と協力して約3.5tの冷凍食品を寄贈しました。今後も継続して活動を行っていきます。

施設に食品を届けるセカンドハーベストジャパン

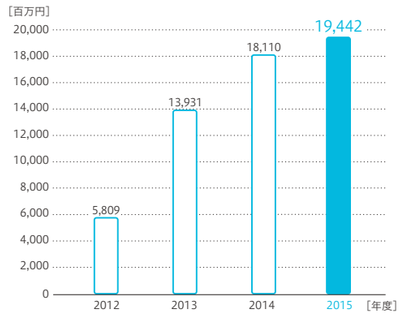
## 会社概要（2016年3月末現在）

| | |
|---|---|
| 商　　号 | 日本水産株式会社 |
| 本社所在地 | 〒105-8676　東京都港区西新橋1-3-1 西新橋スクエア |
| 創　　業 | 1911（明治44）年 |
| 設　　立 | 1943（昭和18）年 |
| 資 本 金 | 23,729百万円 |
| 主な事業 | 水産事業：水産物（生鮮魚・冷凍魚・油脂（魚油）・ミール（飼料））の漁獲・養殖・買付・加工・販売<br>食品事業：冷凍食品、缶詰・びん詰、その他の加工品（フィッシュソーセージ・ハム・練り製品・チルド食品・調味料）の開発・製造・販売<br>ファインケミカル事業：一般医薬品、医薬原料、健康食品の製造・販売<br>物流事業：冷凍・冷蔵保管、冷凍・冷蔵貨物の運搬 |
| 従 業 員 | 1,116名（個別）8,466名（連結） |

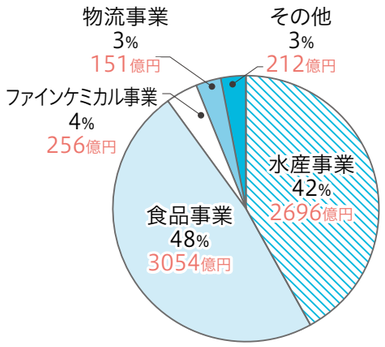
### 売上高（2012-2015年度/連結・個別）



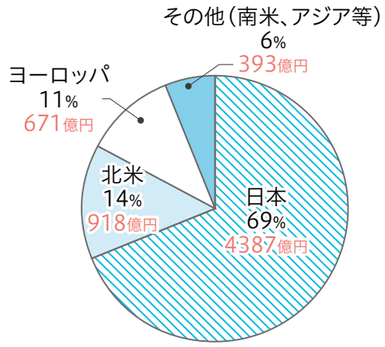

### 営業利益（2012-2015年度/連結・個別）




### 事業別売上高構成比




### 地域別売上高構成比




### 編集方針

| | |
|---|---|
| 編集方針 | この報告書は、日本水産（株）の環境の取り組み及び今年度より新たに活動を始めたCSRに関する取り組みについて、ステークホルダーの皆様に向けてお伝えすることを目的として編集しています。 |
| 報告対象期間 | 2015年4月1日～2016年3月31日の活動実績を中心に掲載しています。報告の内容により、一部2016年度4月以降の内容を含みます。 |
| 報告対象組織 | 日本水産（株）個別と国内の連結子会社・一部のグループ会社を対象としています。<br>環境保全活動の数値データは、日本水産（株）の事業所と国内の連結子会社24社のデータを合算しています。 |
| 参考としたガイドライン | 環境省「環境報告ガイドライン2012」 |
| 作成部署・連絡先 | 日本水産（株）経営企画IR室　〒105-8676 東京都港区西新橋1-3-1西新橋スクエア<br>Tel：03-6206-7079　Fax：03-6206-7080　E-mail：kankyoishiki@nissui.co.jp<br>ニッスイ 社会・環境報告書2016はwebサイトにも掲載しています　URL: http://www.nissui.co.jp/corporate.html<br>英語版URL: http://www.nissui.co.jp/english/social/index.html |



## 第三者意見

東京海洋大学大学院
教授　刑部（おさかべ） 真弘（まさひろ） 氏

PROFILE
専門はエネルギー環境工学。2002年スマート研究会を立ち上げ、新しいエネルギー構想を発表した。震災後の東北に過疎高齢化に対応した仕組みを提案している。文化庁芸術祭大賞等を受賞したNHK番組「メルトダウン」シリーズの事故分析にも協力。ブルーカーボン研究連携機構理事長および日本ボイラ協会会長を併任。

### 「ニッスイ社会・環境報告書2016」を読んで

本報告書の冒頭に、中期経営計画「MVIP2017」に掲げたCSRに根差した経営を推進するため、経営企画IR室にCSR推進課を新設したと書かれており、改革を進める経営陣の決意を感じました。また、従来の環境報告書が社会・環境報告書に改定され、有識者との対談を通してCSRの取り組みをわかりやすく紹介しています。消費者をはじめとするステークホルダーをパートナーに、独自のCSR活動を行うという企業姿勢が伝わってきます。

社会的に重要な問題となっているフードロスに対して、食品廃棄物から新しい商品が生まれる取り組みを行っていることが大いに評価されます。また、魚を余すところなく活用する使命感からEPAやDHAを含む機能性表示食品等を商品化し、魚離れと言われている日本人の健康に大いに貢献していくことも期待されます。EPA生産に特化した新工場を建設していますが、その製造設備では、排出される水や熱エネルギーを回収・再利用するとともに、LED照明を採用するなど環境負荷低減を配慮しており、世界一のメーカーを目指す着実な歩みが示されています。

EPAやDHAは、魚から抽出されますが、元々は植物プランクトンが生成したものを魚が摂取し蓄積されたものが多数です。植物プランクトンは、健全な沿岸域の海洋環境で生育するため、森や海の環境に対する考慮が特に重要となります。ニッスイが先導して環境負荷を低減させた企業活動を行うことが期待されます。

さらに環境マネジメント体制の構築、新たな物流拠点を含めたサプライチェーンを通じた環境負荷の低減、生物多様性の保全、$CO_2$の削減の多様な取り組みにも着実な進展が示されました。最後の地域社会との共生のページにある社会貢献活動にみられるニッスイらしい取り組みも、重要なCSRとして今後さらに発展されることを期待します。

### 第三者意見を受けて

貴重なご意見を頂戴しありがとうございました。
当社は従来より社会貢献活動や環境負荷低減など、様々な場面でCSR活動を行っておりますが、この度、正式に組織を立ち上げステークホルダーのご意見をいただきながら、その活動を見直すとともに進化させるべく取り組むこととしました。
その具体的な活動テーマは未だ議論の途上でありますが、対談にもあるとおりフードロスは重要な課題の一つと認識しております。当社は魚を余すところなく利用することを使命と考えており、EPA・DHA等の魚油を活かした機能性表示食品等を充実することで、資源の有効活用を図りつつ、人々の健康に貢献してまいります。また、森や海の環境を守る等の環境活動にも引き続き取り組んでまいります。
2016年9月に第2回CSRに関するステークホルダーダイアログを開催しました。その中で、昨年の国連サミットにおいて採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を日本国内だけではなく、世界的な視点で取り組むようアドバイスを受けました。
まだCSRの取り組みは緒に就いたばかりでありますが、様々なステークホルダーとの対話を通じ、ニッスイ独自のCSRを進展させ、企業の社会的責任を果たしていく所存です。
今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

日本水産株式会社　取締役執行役員
経理部、総務部、法務部、CSR、リスクマネジメント担当　山本晋也